

令和4年度あきる野市スポーツ推進審議会（第5回）議事要旨

開催日時 令和5年2月6日（月）午後7時～9時

開催場所 あきる野市役所 5階 505会議室

出席者 江川委員、吉田委員、町田委員、金網委員、菱田委員、伊東委員、高岸委員
森本(幸)委員、森本(久)委員

事務局 佐藤生涯学習担当部長、高橋スポーツ推進課長、小林スポーツ推進係長、
スポーツ推進係、寺島

1 開 会 高橋スポーツ推進課長

2 挨拶 江川会長

3 議 題

(1) 第2次あきる野市スポーツ推進計画（案）について

(会長) 議事の一番から進めたいと思います。まず、第2次スポーツ推進計画の案につきまして、事務局よりご説明お願いいたします。

(事務局) 配布資料についてご説明させていただきます。事前に配布しております資料1をご覧ください。資料1につきましては、昨年12月15日から、今年1月13日までパブリックコメントを実施し、期間中に2名の方から、23項目に渡り計画に対するご意見等いただきました。いただいたご意見等を項目ごとに、市の考え方と合わせてまとめたものになります。続きまして、資料2についてでございます。資料2については、12月の議会において、計画の素案として報告した際にいただいたご意見となります。いただいたご意見の中で、eスポーツについて計画に入れるべきではないかといったご意見をいただきましたので、資料3として、eスポーツの説明や動向等について、用意させていただきました。今回の計画内容について、eスポーツを入れるべきか、ご審議をいただきたいと思います。

次に、資料4ですが、スポーツ推進計画について、昨年スポーツ推進審議会会長宛に諮問されておりましたので、本日ご審議いただき、最終的な計画として、教育委員会に答申するための、答申案になります。

最後に第2次スポーツ推進計画（案）をご覧ください。第2次スポーツ推進計画（案）でございますが、昨年9月の審議会より、3回にわたり、皆様からご意見等いただいて、修正等を行い、資料1、2でご説明しました教育委員会及び議会に計画の素案としてご報告させていただきました。あわせて、昨年12月15日から今年1月13日までパブリックコメントを実施し、いただいたご意見等を踏まえて、計画の修正を行いました。修正した箇所につきましては、文言を朱書きで表示しております。主な修正内容につきましては、別途、資料1、2において項目ごとにまとめさせていただきましたので、併せてご審議をいただきたいと思います。なお、本日の議会において、最終的な計画案としてご審議いただいた後に、教育委員会にて承認をいただき、議会において報告を行う予定となっております。

第2次スポーツ推進計画（案）の概要についての説明は以上となります。

- (会長) ありがとうございます。事前にお手元に案と、パブリックコメントについても、事務局からまとめていただきましたので、ご覧いただけているかと思います。今、確認したいことも含めて、ご意見、ご質問等ございましたら、ご発言いただければと思います。前回から赤字加筆修正等されています。資料1では、パブリックコメントということで、貴重なご意見を賜りましたので、そういったことを含めましての市の考え方という内容です。それから資料2では、議会の議論の中から出されたご意見ということで、特にeスポーツという視点での内容が含まれております。まず資料1のパブリックコメントについてはいかがでしょうか。
- (委員) 専門的な話は私にはわからないのですが、市の意見がこういったことの要約なんだなという形で、誤った読み方をしてしまいました。
- (会長) 後ほどまたお気づきであればご発言いただきたいと思いますので、資料1に戻る時にまたご発言ください。資料2に補足資料がありましたので、eスポーツの議論ということで、この審議会でも、スポーツに関して広く議論し、第2次スポーツ推進計画の中で、スポーツに対してどのように目標達成していくのかという議論をさせていただいたところです。資料3のようにまとめられましたが、現状このような背景があるということで共有させていただいておりますので、特に、第2次の計画という関係性では今、案の中にはeスポーツという記載は、直接はっきりと明記されていないというところがありますけれども、別紙の資料3ということから今日委員の皆さん方からご意見いただければと思います。ご質問でもご意見でかまいませんので、いかがでしょうか。
- (委員) この会議でも以前1回、eスポーツという意見があったと思うんですね。そんなに詳しくないですけれども。ある総合型地域スポーツクラブでは、クラブハウスでeスポーツができるように設定されていたり、大画面でeスポーツでコミュニケーションを図るなど、eスポーツをスポーツかどうかという議論をするスタンスはもう超えており、eスポーツはスポーツだと。ただ、この推進計画にどうやって入れるのか、市としてeスポーツをどのように推進するのかということは難しく、そのくらいeスポーツに疎いということで、詳しい人に出席してもらえるとすごくありがたいなという気持ちです。
- (委員) eスポーツですが、町内会でeスポーツ大会というのを今年度から、やり始めてきたんです。市に助成金の申請をして、ゲーム機本体やゲームソフトを購入して行ってきましたが、子供はもちろんそれなりに来て、あまり期待していなかった年配の方しかも、参加されて、わかりやすい車のカートのゲームとか、あと身体を動かすゲームがあったり、テニスとか、ボーリングとか、それが体の運動になるかという、なんとも言えないですけれども。みんなすごく楽しそうにやって、うちの町内会では、定期的にやろうということで、年4回、今やり始めているところです。子どもはもちろん、子どもと年配の方が一緒にやって、心が健康になるような、発想になるのかなと思ったので、私としても入れるのはすごくいいんじゃないかなと思います。けれども、具体的にどう盛り込んだらいいかということは難しいです。eスポーツといっても、学生が目をむきながらやるようなやつではなくて、もう少しライトなのであれば、入れてみてもいいのかなと思いました。
- (会長) 補助金申請を行っている。
- (委員) 東京都内でやっているところがあまりないみたいで、どこかの区が1か所やっ

るようで参考にしました。

(委員) eスポーツをやるには、どのぐらいの広さの部屋とか器具が必要なんですかね。イメージがつかないですけど。

(会長) 委員がおっしゃるような、例えばテニスのような体を使って行うとなると、動くスペースが1畳とか2畳ですよ。テレビでよくやっているような、跳ねたりすると1畳、2畳だと狭くて危ないので、もう少し広い方が良いかと思いますが。こういう感じのものだと、コントローラーが動けばいいとかという話でしようし、それから座ってでもできるようなものもあるでしようし、多分、種類によって、レースみたいなものはむしろそういうスペースがいらぬですね。座って画面があればできるという話なので。

(委員) 学校の教室が1つ分あれば、結構なスペースが設けられて、道具さえあれば色々な種類ができる。ちなみに1つのセット金額はいくらぐらいになるのか。

(委員) ピンキリですよ。2、3万円ぐらいのものから7、8万円みたいなものもあると思います。あとはそのソフトというか、その種類によって何千円とかというのを、足していくみたいな。

(委員) 私はスポーツ推進委員でペタンクなどを広めたいと思っていますけれども、セットで7、8万円するんです。それを2、3セットですよ。お話を聞く限り、学校は空き教室がかなりありますよね。私のイメージでいくと場所は確保できるのではと思うんですよ。それから、私たちスポーツマンというスポーツをやっている人間から見ると、心肺機能をあげるとか、筋力をあげるとか、「ぜいぜい」言って汗を流すのがスポーツかなというイメージを持っている人間からすると、画面に向かって動き回る、下手すると手だけで操作をする。はたしてこれはスポーツなのかなと思います。どちらかというとゲームではないかと言いたくなる。

私は介護の世界に入っていて、私どもではありませんけれども、パチンコやスロットをやらせてみたりする、そういう例もあるみたいですよ。デイサービスの中でパチンコが関係あるのが面白く、それから麻雀やるのも楽しいそうです。おそらく娯楽でやるのでしようけれども。でも、それを楽しくやるんだという発想に変えてしまえば、非常にコミュニケーションができるいいものになっていると考えたら、そのスポーツも汗かくだけじゃなくて、みんなで集まりやるのがいいとなれば、これはeスポーツということになると思うのですけれども。そうやって転換さえしてしまえば学校には必ず1つくらい空いてる教室はあるでしようから。どこかに拠点校を作ってあげてもいいのかと思ったのですけれども、イメージが具体的に掴めぬんですが。自治会でできるなら当然、そういう設備さえ整えばできるのではないかと思います。

(会長) eスポーツは選手権とかもありますし、対戦相手が目の前にいなくても、通信でできますので、例えば、東京都大会とか、そういう集まらなければいけないというスタイルではなくて、誰とでもできるとか。それから委員がおっしゃったその町内会自治会的なコミュニティの中で、普段接点がないような年齢や年代の差を超えて、一緒にやれたら。孫が出ればおじいちゃんおばあちゃんが入ってくるという話であれば、それはこの計画は成人のスポーツ実施率ということですがけれども、結果的には、成人が子供につられて何かやるとか出掛けて来るとか、そういうことになると思いますので、年4回街中に出るだけで、ものすごい大きなインパクトかもしれないし、そういう点では、eスポーツも小さく捉える必要はないと思いますし、空き教室の利活用もそうだと思います。知的なものとか、そういう通信環境で繋がるという観点で言えば、例えば、外国と接点を持ったり姉妹都市同士で、eスポーツであれば交流が持ると

か、そういった観点もあるかと思えます。

最初の意見にもありましたけれども、eスポーツがどのように、この計画に載るのか少し難しいところがありますけれども、eスポーツだから計画の外に出すという意味ではなくて、我々もいろいろ考えて、スポーツという中に、eスポーツというジャンルも無視していないということは、議事録でも確認していただければと思います。また今回の町内会以外でも、そういったことがあれば是非。

それはどこの補助金ですか。

(委員) 市の補助金です。詳しくは役員ではなかったので分からないのですが、ゲームを買うという内容で申請する。

(委員) 事例を聞くと、そういう広がりがあるのかというのはすごくわかりやすい。

(委員) 資料3にありますように、eスポーツの課題というのが書いてあるんですけども、これが出てきてからまだ年数も経ってないです。これをスポーツとどのように結びつけていけるのかという議論をずっとされてきてるんです。ここに書いてあるように、身体活動を超えた新たな価値の検討が必要ということをしてきていますけれども、まさにそうなんです。ですから、市民からすると一般的にスポーツというと、身体活動を伴う感覚を強く感じると思うのです。eスポーツというものに対する認識がまだまだ低いものですから、目的をはっきりさせながら提示していかないと、唐突という感覚がします。これから検討・整理しつつ、計画に上げる必要が出てくればと私は思っています。

(会長) 資料3のその他のところは、実は、この審議会の外かもしれませんが、健康の観点からいうと、非常に問題視されていて、高齢者の影響は少ないかもしれませんが、むしろ、認知症予防をしたりだとか、ポジティブな効果が多いですけども、若年者にとってみると、目の影響とか、それから睡眠障害になるとか、身体的な活動からの学力低下を含めて、色々な悪影響の方が言われていて、要は依存症ということなんです。これが、長期間にわたった時にどうなるのかというのは、まだまだわからないわけですけども。ただ、あまり良さそうじゃないということはわかってきている中で、eスポーツの推進と言ったときに、我々がスポーツの観点では推進したいのだけど、健康の観点ではどうなのかとか、そういったことも、これはむしろ、18歳以下の健康課題ということになりますので、この審議会の目的がずれているかもしれませんが、ただ全然無関係というわけではなくて、最初にお話があったような、他世代の交流であるとか、時間とか場所とか、制約がなくて、交流できるというメリットと、副作用との関係だと思えますので、そういう点では、まず身体活動という言葉もこの1期の計画で、まだまだ浸透していないところがあって、ようやく運動スポーツ身体活動というのが、少しずつ根づいてきたところなんです。eスポーツというのも、第2期の計画の中には、特に入らなかったとしても、今後、身体活動という言葉が普及した時と同じように、eスポーツについても、認知度を高めていくような時期が来ると思えますので。

今、委員からのご指摘が、大事な視点だと思いますので、今後、国と様々な情報をうまく取り入れながら、決して排除するという意味ではなく、うまく使っていければと思います。計画にどう文言を入れるかというレベルまでは、今日の議論では、難しいかもしれませんが、ただ1つの種目を生涯を通じて行うということが、eスポーツみたいなものが入ってくると、そういうことではなく疑似体験ができたとか、新しい種目に対してハードルが下がる。

例えば、季節限定のスポーツなんてものは、逆に言えば、eスポーツであればいつ

でもできるということも出てきます。それから、プロ選手との交流など、eスポーツ協会ではよくあって、トップアスリートにいろいろ教わることもeスポーツという媒体でやっているからということもあります。だから、セカンドキャリアとしてアスリートがそういう通信環境を使って育成することも出てくるし、私たちは、審議会でもよく議論に出てきた障がい者スポーツの指導者が足りないということで、これから出てくる学校の部活動の問題、人不足という観点でも場所と、時間の制約が少ないという観点では、eスポーツを推進するという意味ではないかもしれませんが、いろんな可能性はあるかと思います。ただ副作用もあるということも共有させていただきたいと思います。

ここに書いてあるとおり、栃木県では今年、国体でしたので結構盛り上がったらしいです。eスポーツもきっとスポーツ大会に組み込まれる日が、そう遠くないはずで、佐賀県あたりの大会では、きっと取り入れていると思います。そう考えるとスマホのゲームで熱中している「中高生」と「eスポーツ」という捉え方をしないで、もう少し広く捉えていければいいと思います。彼ら彼女らを無視しているわけではないけれども、先ほどの汗をかくとか体を使っていることも、ないわけではないと思います。

(委員) 今、息子がちょうどゲームにはまる時期で、時間をこちらでコントロールしてやっているのですが、特にコロナ禍にオンラインで友達とつながれるのは、身体的な活動がないにしても心の健康ということで、相当ゲームに助けられたというのは、親の立場としてあります。外に出られない中で友達と楽しそうに会話している。

世界中の色々な人達とも交流できるし、ネガティブな部分もあるのだけど結構ポジティブに感じていて、対戦的な部分もあるし、ゲーム機を見ながらの身体動作を含めたゲームというのは今後出てくるので、十分スポーツとしての価値はある。是非取り入れてやってみてほしいと思います。

(委員) ボタンもたくさんあるし、指の瞬発力も必要だしよくできるなど。いわゆる反射能力も必要だし。十分身体活動はあるのかという気がします。

(委員) ゲームの障害のところも、隣の市であった講演会に参加させてもらって、ゲーム脳とか、そういうことに関して、横浜の方の専門病院の先生が講演してくださって、ネガティブな面もかなり教えてもらったのですけれども、ただ、フィジカル的なスポーツでも、骨折とか、あとはやらせすぎによる小学校5、6年生で既に野球少年が肘の手術をしなければいけないとか。だから、フィジカル的なスポーツでも十分に障害は、発生しているという考え方もあるので、とにかくやらせすぎは良くない。

これは、身体すべてに言える、心臓に負担の掛かる心拍をかなり上げる運動をやらせすぎれば心臓疾患を将来持ちやすくなるので、なんでも含めてやりすぎは良くない。むしろ、そういう知識も振りまいていきながらというのが、逆に色々な団体のスポーツは、子どものやらせすぎは気をつけなければいけないですけれども、1日練習をやっている団体がたくさんあったりして、部活動のガイドラインでも、どの程度にしましょうというのを、明記するとかあって、そういう周知もしながら、認めていく。何でもやりすぎは基本的に良くない。なので、ゲームに限ったことではないのかな。このネガティブの問題は、そのように解釈しました。

(委員) スポーツ協会でも何人かで議論しています。仮にeスポーツの団体ができて、協会に入りたいたといたら門戸は開きましょう、という話は今のところしていますけれども、今のところ、まだそのような問い合わせも入会希望もないというのが実情です。私も何人かがおっしゃったように何をやったとしても障害とか、そのネガティブな部分と

というのが必ず背中合わせであるわけですから、もうネガティブな部分を気にして取り組まないというのは、むしろまずいんじゃないかなと思いますし、これをどういう形で入れたらいいのか、この文章を色々見ているのですけど、どこにどういう形で入れたらいいのか、良いアイデアがないですけれども、何らかの形でこういう新しいことに対する取り組みもやります。或いは、受け入れますという、そういう情報があればいいのかと思っています。

具体的に、どこにどのような感じで入れたらいいのか、わかりませんけれども。eスポーツという言い方がいいかどうかは別として、こういう新しい世代に対応したスポーツ、一時期「チェス」をオリンピックに入れる話だってあったと思います。これは頭を使うということ自体もスポーツという捉え方をすることがあるわけですから、なんらかの形でこれを入れておけばいいなとは思いますが、具体的にどこにどういう形って言えないですけど。

(委員) 市としても最新の情報をうまく使って検討していくみたいな言い方しかないですよ。当面これだという計画はなかなかできないですね。

(委員) 他市などの事例みたいなものはないんですか。

(事務局) 具体的に少し前に私が調べたところで、世田谷区の計画でeスポーツについて具体的に検討していくみたいです。

(委員) 今作ろうとしてる、これは、この先9年間となってるけれども、途中でもう一度社会の情勢にあわせて見直しをしていくみたいなものがあるので、1回ここでeスポーツに触れながら、今全部盛り込むのはすごく難しいことだと思うんですけど、そういった中で前向きな考え方をに入れて、見直していくという表現のものだったら見せられるのかなと思います。

(委員) 外で汗をかいてやるのが「スポーツ」だと自分たちはそう学んできたものですから。でも今の若い方、これから子ども、うちの孫たちも、よくお互いにサッカーも名前をつけて遠くにいる友達と試合をやっているなんてことも聞いてはいるんですけど。それがスポーツ化して、画面を見たり打ったりしているのを見ていましたが、やはり私たちの時代と違って、意見といってもこれといったことは出せないですけれども、そういうのを目で見えてきて、勝った負けたと、誰とやっているのかと聞いたら、友達とみんなでチームを組んでお互いに家でやっているんですよ。頭も使い、でも体は使わないですよ。

(委員) 結構うちの子とか、何で汗をかいているのだろうというくらい、汗をかいてやっているときもある。興奮して友達と大きな声出したりして。

(委員) これからは、そういうこともどこかで認めてもらえるようであってほしい。これとって、これがいいとかわからないです。とても難しいです。

(会長) eスポーツそのものの議論を深めていくほど、今日の時間では捉えていませんけれども、少しまとめさせていただくのであれば、例えば、スポーツ協会を含めてですけども、別に受け入れないということではなくて、動きがあれば、スポーツの一環として、広げていきたいということ。それから、多くの意見の共通な部分として決してネガティブな部分を見逃しているわけではなくて、ポジティブ、ネガティブ両方あった中で、より良いところを使っていけたらどうかということについては、前向きな意見をいただけたと思います。それから、現状では文言にどう入れ込むかというのは、これから報告書本体ができ上がったからの意見でしたので、急に付け加えるというよりは、一つご提案いただいたのは、中間評価まで、まだ時間がありますので、第2次スポーツ推進計画の中でも、それを取り入れていくということで進めていければいい

のではないかというご意見でございました。そういったことを総合的に捉えた時に、何ページのところでというようにはなりませんけれども、eスポーツを含めた、何らかの動きを計画書に盛り込めたらいいのかなと思います。その点について事務局に提案をいただいて、大幅な改定というよりは、少し表現を追加することがあるかと思いますが、加えさせていただければと思いますが、よろしいですか。

また、追加発言がありましたら、後ほどで結構ですでお知らせください。それから資料4 令和5年2月ということで今の修正を含めまして、答申ということになります。令和4年1月付けの諮問に対する答申ということになりますので、これをもって今、ご発言があったように、結構長い期間の基本的な計画第1次スポーツ推進計画を、踏まえての第2次スポーツ推進計画ということになります。資料1にもあって、厳しい指摘なんですけれども、結局70%は達成できていないじゃないかということに対して、もう一度きちんとその理由を考えたり、原因を突き止めて、第2次スポーツ推進計画では、その目標にいかに早く到達するかということを、皆様からまた、考えていかなければいけません、少なくとも今の時点で考えられる計画案ということで、答申をさせていただければと思います。

資料4につきまして何かございますか。ではもう一度元に戻っても全体でも構いません。全然別の視点でも構いませんので、もう一度この計画について、質問の提案、ご意見、何でも構いません。

では、「その他」で私は発言しようと思っていたのですが、実は選抜の問題で暴力関係のことですね、この審議会でも取り上げないわけにはいかないかなと、私の立場で思っておりますので、お時間をお借りして発言させていただくと、あのような報道が出たときにですけれども、やはり子供への影響もありますけれども、市全体のスポーツのムードというか雰囲気としては、あまり良いニュースではないので、決して放つというのではなく、日頃、皆さん方ご尽力されている草の根の、色々な努力ということもあのようなことで、あきる野市が報道されますので、あまりいいことじゃないです。そういったこともあって、指導者の育成であたりだとか、スポーツする場の環境整備とか、いろいろ言ってますけれども、あのような報道、それ以前にはそういう事象が起こるということに対して、審議会としてどういうことができるのかなということ、これはまだ思案の段階ですけれども、皆様方にご意見いただければと。

この審議会というのはどちらかというと、スポーツをプロモートする立場ですので、あのようなネガティブなことが起きた時に、きちんと対処するとか、例えば、あのようなことはもう絶対起こさないように働きかけをするだとか、もしもっと強く出るのであれば、何かしらのアクションをしていくということも含めて、審議会がただ定期的で開催されて、ルーティンの議題をこなすということではなくて、積極的にネガティブな要素が出てきた時には、うまく対処をしていく、そういったことも必要になるかと思います。野球人口が減っているとはいえ、結構トップニュースにきてしまうので、そういう点で、審議会がキャッチして何かをするには、結局時間は掛かってしまうわけですが、ただ、市の公的な機関としてきちんと、このスタンスを明確にして。簡単に言えばあってはならないことだということをきちんと色々な団体とか色々な立場で発言していくことで、将来のそういう再発であるとか、そういったことも防げるのではないかと。

もっと言ってしまうと、そういう指導者を寄せ付けないということ変ですけども、そういう環境を見逃さない、そういったことが長い目で見たときに、育成世代から、

成人を含め、それから先ほど、私たちが新しいスポーツの在り方を知らないからということがありましたけれども、もしかすると、その審議会にもう少し新しい視点を持った方であるとか、新しい指導者の立場の方とか、そういった方の意見を聞くような場も必要なのかもしれないので、そういう点で発言させていただきます。特に、意見を急に求めるとかそういうことではないですけれども、今年度のこの審議会もこれで最後ですし、発言させていただきました。

この件について何かご意見ございますか

(委員) おっしゃることはわかるんですけど、その関わり方が難しいですね。審議会としての立場で、直接そこに触れていくというのは、現状もよく把握していないということもありますので。それは今回のあきる野市の事例だけではなくて、全国的な問題としてもあるんです。それが高体連でも検討はされていると思うのですけれども、そういった情報がなかなか我々の委員としても、持っていないですから。考え方が難しいです。おっしゃる事はわかります。個人的にはそう思います。

(委員) うちの指導スタッフの中に、羽村市在住のスタッフがいるんです。羽村市では結構、指導者講習会みたいな形で、あるじゃないですか。この間、先月行ったもののプログラムを見せてもらったら、入っているんです。指導者のアプローチの仕方のスキルアップについてとか、ただ教え込む指導ではなくてとか、それが新体操の元日本チャンピオンが講師でいらっしゃったりとか、いくつか項目がある中にその項目もしっかり入っていたりして、市として、そういうものを行っているというのがあって、すごく良い事例なのではないかと思えます。暴言暴力が良いわけがないことはもう確定していることなので。

例えば暴力を受けた、暴言を受けた人は脳に影響があったりとか、PTSDになってしまったりとか、実際にもうスポーツの中でも暴言暴力が立派な傷害事件だということも明確に出てきている時代なので。あとは、日本スポーツ協会に相談窓口が、設けられていることを市民に周知する努力をするとか、あと種目によってはその協会とかでも、相談窓口を設ける兆しが増えてきているので、そういうことを周知するとか、そういったアクションを起こした方がいいかと思えます。

うちのクラブのアドバイザーにスポーツ局のジャーナリストがいて、12年ぐらい前から「桜宮高校」大阪のバスケットボール部の自殺に追い込まれた事件の取材を徹底的にして、1冊本も出したところから、そういうことをずっとやっている方で、あきる野市にもよく来てくれているので、そういう方に1回相談をしてみるのはあるのかと。私もその方が色々と情報をいただいて、コロナになる前は保護者の希望者を集めて、ディスカッションタイプの講演会をやってもらいました。日本スポーツマンシップ協会というのがあって、目標は解散すること。スポーツマンシップなんて当たり前のことじゃないかという時代を迎えて解散することが目標だという形で、日本スポーツマンシップ協会があって、そこの方にも講師で1回1つの種目に親子で参加していただいて、加熱しすぎるプログラムだったので、指導者、保護者、子どもたちを集めてスポーツマンシップとは何なのかという、スポーツとは何なのかというところの講義をしてもらったりと実績は作っていますので、具体的に動きを取ることは十分できる。

さっきの話に戻しますけれども、羽村市はすでに具体的に動いているというところも、情報として、あきる野市も積極的に取り入れるべきではないかなと思えます。

(委員) その羽村市でやっているのは私も関わっていて、もう何十年もやってきている。色々その都度に課題があって、熱中症の問題であるとか、そういう時にはまた専門家

に来てもらって、年に1回3日間から4日間くらい行っている。それは、そういった想定をしながら子どもたちに教える指導者、それだけではなくて、スポーツ協会の指導者も含めて、研修をやっているんですよ。だからそうやってもなかなか、その都度色々な場面を見ると、課題が結構あるんです。例えば高校の女子バレーボール大会があるんですけども、益子さんが言っているように、やっている間は楽しくなかったと。楽しいバレーがやりたいんだということで、その根底に何かあるかということ、ずっと自分が一流の選手だったので監督に怒られていて、それは楽しくないと。楽しいスポーツを子ども達に伝えて、子ども達が色々な形で発展できるようにしていきたいと思います。そういう観点からいうと指導者というのは常に計算しながらやってみることが必要なのでしょうね。羽村市の情報はすぐに入りますので。

(会長) 今回この発言は時期的に今日しかなかったのですが、この場で発言させていただいたのですが、決して不用意に発言しているわけではなくて、近隣の羽村市という事例も出ましたけれども、暴力的なことだけではなくて、子どもへの悪影響ということと、それからどうしてもこの議論になったときに、指導者の研修ということが中心になるんですけども、そういうステレオタイプな議論ではなくて、大人ができていないことは、子どももできなくなってしまうので、大人がしっかりやるというところを見せる。

この計画は成人のスポーツ実施ということに、フォーカスしすぎているところが多少あるのは、結局その環境を作るとか人を作るとかということが根底にあるはずなので、スポーツにその暴力みたいなものが根づいているとすれば、私はバレーボールをずっとやっているのですが、わかりますけれども、傷害ですよ。ボールという物理的なものをぶつける競技ですから、傷害なんですよね。だから上手になるにはどれだけ怪我をするかという、相反することですよ。それは顔面にもぶつかりますし、色々な怪我をするわけですよ。でも、楽しくないというスポーツの本質と楽しいというスポーツの本質は背中あわせのところであって。今、スポーツを広めたりとか、みんなやってみましょう、と言うのは、どちらかといえば楽しいよね、と言うところがあるわけなので。だからといって辛いところ苦しいところ、悪い副作用的なところを無視するわけにはいかないけれども、良いところばかり言っても駄目なので。そういう点では、指導者というのがやはりある程度、鏡になってくるわけです。それは大人が指導する以上、我々の計画の中でもきちんと人材育成研修を含め、それから、委員の最初のご指摘は情報がないという話ですけども、もちろん、我々が個別の事象に対して何かアプローチをするというわけではなくて、そういうネガティブな状況があったときにしっかりとしたスタンスを出さないと、ただ、やればいいのか、70%なんてことばかり走ってしまうので、そういうことではなくて、きちんと根拠をもって、目標立てているわけですから、それにネガティブなものにどう対処するかということも、今後は考えていく必要があるのではないかと、問題意識として発言させていただきました。

難しいテーマですので、急に解決するわけではないと思いますがけれども、是非皆さん方の周辺でも、そういう視点で捉えていただいて、情報があれば、また共有させていただければと思います。

「その他」を先に言ったんですけど、この内容で、次の計画期間、目標達成に向かっていけるかというように感じていただければいいかと思います。そして、今日欠席の委員ですけども、学校という立場からも、この委員会でも色々ご発言いただいておりますし、それから指導者とか、育成とかといった時にはもちろん、未成年という視点も必要だと思いますが、今回、障がい者の関係とか、それから、eスポーツでも

少し議論ありましたけれども、今までの常識にとらわれない、少し広い範囲で、そういう点からの第1次の計画には、あまり出ていなかったことだと思います。そういう点では第1次計画から、かなり広がって皆様方のご意見で、目標に近づくのかと思いますので、是非引き続き、ご意見等いただければと思います。

それからスポーツ協会の方も、団体数だとか、関わる人数だとか、色々な観点で変わりつつあって、種目も変わったりだとかしますけれども、この計画の実現にあたっては、かなり大きなウェイトを占めると思いますので、スポーツ協会の立場ではありませんけれども、色々な情報を連携させていただいてありがとうございました。

eスポーツ関係のことは、事務局一任ということで、加筆させていただくことを条件に、今回の案ということで、お認めいただきたい。

(委員) 今日、個人的にこの時間で聞いた話だけでも、eスポーツに対してもイメージが変わりました。そういう機会がないからこそ、皆さんわからないだけであって、お話を聞けたり見れたりすると考え方が変わると思います。

(会長) そういう点では今の推進計画の案を作って終わりということではなく、推進計画の案が取れて推進計画が始まったとき、例えば、eスポーツの話とかも、情報発信していくことは必要でしょうし、それから中間見直しまでの間、多少時間がありますから、その間、我々も色々な情報を収集し、それから、町内会のeスポーツがどう育っていくか、見届けながら、広がり方によっては協会にそういった団体が生まれるということも期待しています。それはわかりやすいと思います。

(委員) 見させていただいて、ピンクで書いてあるところがございますよね。文章で最初ぱっと見たときにわかりにくかった。もしできあがったものについては、もっと見やすい色になるといいですね。

(会長) 赤の部分は確定した時には、黒字になるので、見にくいことは解消されると思います。

(委員) 1つ確認、これはカラー版で出るものなのですか。

(事務局) そうですね。グラフ等もありますし。

(委員) 何回か前に、このグラフとかも網掛けみたいな形になっていて少し見にくかった、カラーになると良くわかるので、実際もカラーで仕上げますか。SDGsのマークもですよね。

(事務局) その中で、多少余白がある部分があるんですけども、そういったところには、写真とか、マスコットが登場しているところですか、そういったものを入れていこう考えております。

(会長) なんか、候補になる写真がどんなイメージか共有できる範囲でいいですけど、どんな写真を使う予定ですか。

(事務局) まだ、整理はしていません。

(会長) 昔は結構イベント的な秋留台公園でもいいですし、ファインでもいいですけど、市民が集まってラジオ体操とかでもいいし、と思ってたんですけど、個別の何かそういうスポーツの競技場面とかでもいいと思います。

(事務局) コラムのところでは、ポッチャ等の説明が入っていたりしているので、そういったところでは、競技をやっている風景ですとか、そういったものを組み込んだりとか、スポーツというところではそういう施設の例えば秋留台公園のイベント等の写真も入れられたらとは考えています。

(会長) 今日の議論から急かもしれませんが、もし町内会のeスポーツの写真が、もしスポーツの雰囲気であって載せられれば。

- (委員) 町内会でeスポーツをやっていますとなると、みんなの注目度は変わってくると思います。
- (会長) ゲームに没頭するとミスリードするかもしれません。eスポーツに限らず他の委員も含めてなんですけど、何か、適切な写真とかがあれば、それは余白に掲載したいですかね。
- (事務局) 事務局の方でも結構そういった写真はストックしているんですけども、なかなか同じ目線で撮ったような写真が多いと思いますので、変わったものがあると、そういったものを提供していただければと思います。もしいただけるということであれば、早めにいただければと思います。
- (会長) 市民が策定する、様々な行政の計画の中でも、あきる野市はこの計画も含めてですが、比較的市民の声が近く、その分コンサルとかが入りやすく、綺麗じゃないかもしれませんが、その分身近な表現で、身近な計画になっているかと思いますので、そういう点で今回、アンバサダーも含めてなんですけれども、表紙が、象徴的なマスコットということで、素晴らしい計画になりますし。また挿絵というか、各ページにそういう市民の活動の様子とか、それからスポーツ推進委員ですね、色々な我々の歴史もありますので、そういった人たちの活躍の場というのが、適切なページに写真で掲載されることも、他市の計画と比べて、なかなかないと思いますので、是非、時間的にタイトかもしれませんが。事務局にお寄せいただければ、よりよい計画書になるかと思いますのでよろしくお願いします。

4 その他

5 閉 会 吉田副会長